

**E A 2 1**

# **環 境 活 動 レ ポ ー ト**

**2 0 1 0 年 度**（平成 2 2 年 度）

期 間：2 0 1 0 年 1 月～2 0 1 0 年 1 2 月

2 0 1 1 年 3 月 8 日 発 行

**株 式 会 社 丸 由 製 作 所**

## 事業活動の概要

### 1. 事業者名称

株式会社 丸由製作所

### 2. 代表者名

代表取締役 社長 澤田典希

### 3. 事業所所在地

〒467-0853  
愛知県名古屋市瑞穂区内浜町19番17号

### 4. 環境管理責任者及び担当者

E A 2 1 推進委員長 代表取締役 社長 澤田典希  
E A 2 1 推進副委員長 代表取締役 専務 澤田匡希

環境管理責任者 製造部長 長谷川正清  
事務局 松澤博敏

連絡先 電話 052-821-7777  
FAX 052-821-7779

### 5. 事業内容

各種自動化装置（自動車、電池、半導体、薬品、部品）のシステム開発・設計・製作・施工及び技術サービス

### 6. 事業規模

	単位	2007年	2008年	2009年	2010年
主要製品生産量	台	76	100	100	56
売上高	百万円	744	990	990	434
従業員	人	22	29	29	29
床面積	m <sup>2</sup>	777.5	777.5	777.5	777.5

株式会社 丸由製作所

# 環境方針

## 環境理念

株式会社丸由製作所は、環境保全を事業経営の最重要課題のひとつとして位置づけ、事業活動のあらゆる面で環境への負荷低減に努めると共に、開発提案企業として、高度な専用機、設計、製作、画像処理システムを通じて環境保全に配慮した製品、部品を提供することにより、より良い環境づくりに貢献します。

## 環境活動方針

当社は、名古屋市瑞穂区内浜町地内で、主として自動車関連部品を生産する製造設備の設計・製造を行っている。

この事業活動において、環境への影響を理解し、環境経営を優先課題と認識し、全社員一致団結し「エコアクション2.1環境経営システム」を確立し、積極的に運営していきます。

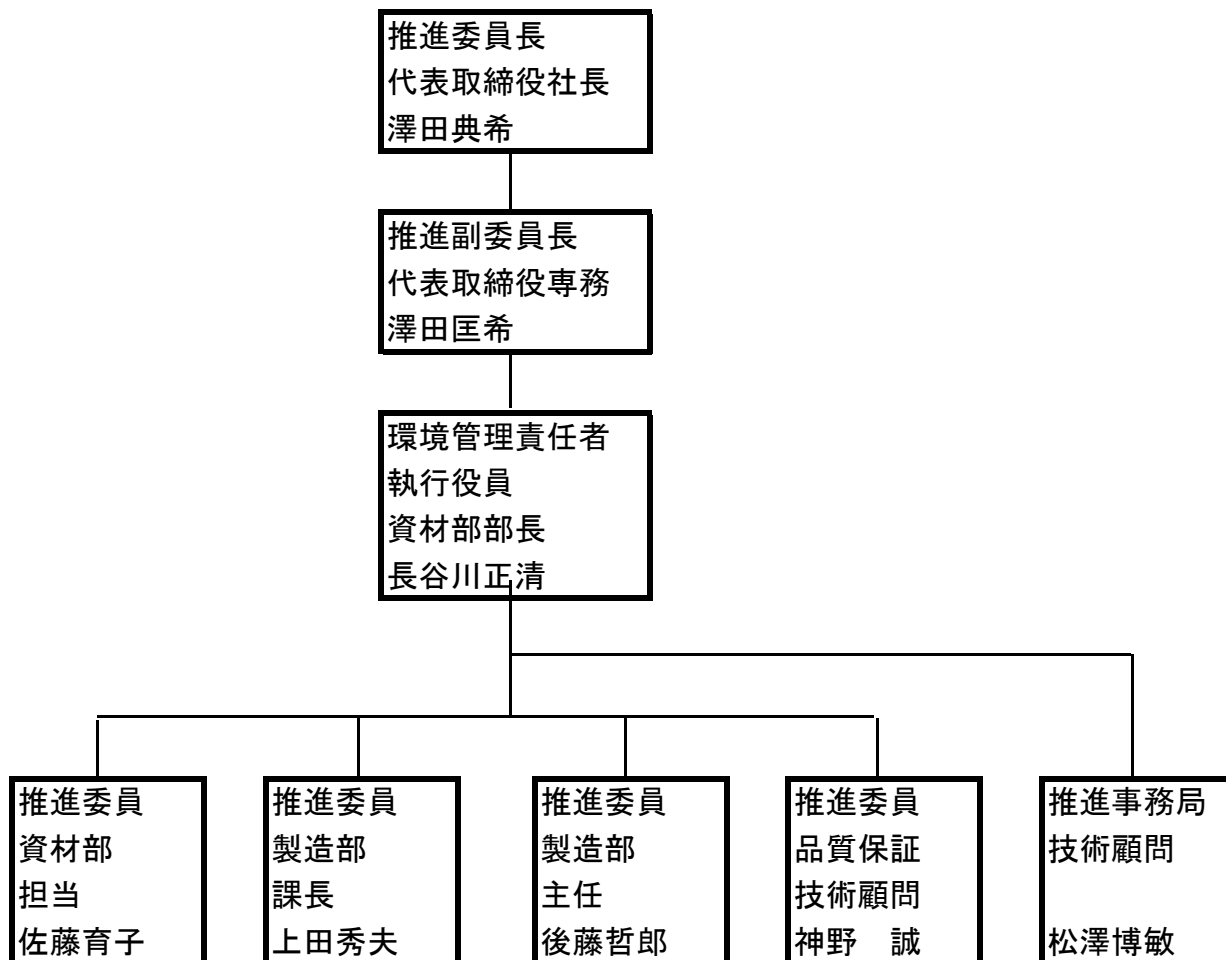
1. 環境関連法規制を順守する。
2. 環境目標を定め、定期的に環境経営システムを見直しして、継続的改善と環境汚染の予防に努めます。
3. 環境への悪影響を低減するため、次の事項を実施します。
  - (1) 地球温暖化防止のため電力及び化石燃料の低減をし、二酸化炭素排出の軽減に努めます。
  - (2) 事業活動における廃棄物の処理は、分別を積極的に行うことにより、最終処分品を低減していきます。
  - (3) 水資源低減のため水道水の使用を低減します。
4. この環境方針を全従業員に周知徹底して実施するとともに、一般にも公開します。

2008年(平成20年)6月15日

株式会社 丸由製作所  
代表取締役社長 澤田典希

E A 2 1

環境経営システム推進組織  
(EMS実施体制 I)



役割	実行担当者	責任権限
推進委員長	代表取締役社長	環境方針の作成、 環境管理責任者の任命
複推進委員長	代表取締役専務	社長の責任権限の代行
環境管理責任者	執行役員資材部長	環境マネジメントシステム総責任者 環境マネジメントシステム構築・運営、実施の総括
推進事務局	技術顧問	全体計画の立案、
推進委員	各部門代表者	EMS実施・運用 EMS実施状況確認 EMS実施状況記録

## 環境目標とその実績

### [1] 環境目標

環境目標は、2007年度（1月～12月）を基準年度とした環境負荷の実績を基準とし、活動目標を設定した。

数値目標は、基準年度から毎年1%削減するとし2008年～2010年の中期目標を設定した。2011年以降の目標値は過去3年間の活動及び結果を考慮して設定する。

項目	期間 2007年度実績 基準年度 (2007年1月～12月)	目標値		
		2008年度 削減目標(1.0%)	2009年度 削減目標(2.0%)	2010年度 削減目標(3.0%)
二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO <sub>2</sub> )	85,203	84,351	83,499	82,647
廃棄物排出量の削減 (kg)*	480	475.2	470	466
水使用量の削減 (m <sup>3</sup> )	197	195	193	191
電力使用量の削減 (kwh)	126,764	125,496	124,229	122,961
ガス使用量の削減 (m <sup>3</sup> )	92	91	90	89
ガソリン使用量の削減 (ℓ)	15,664.08	15,507	15,351	15,194
軽油使用量の削減 (ℓ)	276.55	274	271	268

注意：二酸化炭素の排出量は、電力、ガス、ガソリン、軽油の使用量に排出係数を乗じて算出した。

### [2] 環境活動の取り組み期間

2010年1月1日～2010年12月31日

### [3] 環境活動の結果

項目	2009年度		活動期間の		2010年度		活動期間の	
	目標	結果	目標値 増減 (%)	評価	目標	結果	目標値 増減 (%)	評価
二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO <sub>2</sub> )	83,499	69,599	-16.6%	○	82,647	79,131	-4.3%	○
廃棄物排出量の削減 (kg)	470	319	-32.3%	○	466	674	44.8%	×
水使用量の削減 (m <sup>3</sup> )	193	205	6.2%	×	191	200	4.7%	×
電力使用量の削減 (kwh)	124,229	95,006	-23.5%	○	122,961	114,102	-7.2%	○
ガス使用量の削減 (m <sup>3</sup> )	90	75	-16.8%	○	89	83	-7.0%	○
ガソリン使用量 削減(ℓ)	15,351	12,574	-18.1%	○	15,194	12,610	-17.0%	○
軽油使用量(ℓ)	271	1,652	509.6%	×	268	2,496	830.5%	×

#### 1) 二酸化炭素排出量

結果：二酸化炭素排出量は、電力、ガス、ガソリン、軽油の使用量からエネルギー消費量を二酸化炭素重量換算で目標値より4.3%減少した。

評価：二酸化炭素排出量は、目標値を下回っている。

しかし、計数対象のエネルギー源中の軽油使用量が目標値を上回っているが全体として見てみると目標値を下回り達成している。

軽油使用量の増加は、特殊電源を必要とする製品製造の為、ジーゼル発電機をリースで使用したためであり、一時的なものと考える。

2) 廃棄物排出量

結果：分別を明確にし集計した結果、最終処分量が目標値より44.8%上まわった。

評価：購入品の包装材の廃棄が大半を占めていたのでそれを資源化することにより削減できた。  
今後、更に分別を徹底し不燃ごみを削減しゼロエミッションを目指す。

3) 水使用量

結果：水の使用は、生活用水のみであり、取組期間中の使用量は、4.7%増加した。

評価：使用量増加の要因は社員数の増加にある。基準期間人員は22名、活動期間は29名と32%増加しており、実質1人当たりでは10%程度の削減となっている。  
今後は人員数の変動を考慮した目標の設定を検討したい。

## 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法令は、「法令等規制要求事項一覧表及び確認表」のとおり当社が適用する法令等をまとめた。

環境関連法令等の遵守状況を確認した結果、関係当局からの指導、環境に関する苦情、訴訟等の指摘はありませんでした。

なお、過去3年間環境に関する違反、苦情、訴訟等の指摘はありません。

以上